

国

語

(
解答
番号

1

}

41

(

I 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。解答番号は、

1

23

生物の保護については、個々の生物のレベル、生物種のレベル、生態系のレベルという三つのレベルで考えることができず。まず個々の生物のレベルですが、植物は無視して「動物」に話を限定すれば、このレベルの思考は個々の動物に苦痛を与えてはならない、という考え方に対応します。このレベルでは、動物個体そのものに **ア** があるなら個々の生物を殺すことはかまわないが、生物種の絶滅は防がなければならないことになります。そして、第三のレベルでは、個々の生物や生物種ではなく、生態系全体に価値があると考えられています。

重要なことは、このいずれのレベルで考えとしても「人間中心主義」^Aにはならず、「非・人間中心主義」の立場になるといえます。

この第二のレベルの「生物種を保護する」という立場を例にとつて、これがどのように「非・人間中心主義」の立場になっているのかをみておきましょう。みなさんもご存じの通り近年多くの生物種が絶滅しています。 **A** 生物種は自然に絶滅するもの1 ですし、実際に人類が大キボな産業活動を始める前にも多くの生物が絶滅しています。生物種が絶滅するのは、必然的なことです。あるいは「ああ、トキが絶滅してしまう」と生物種の絶滅を嘆くことは、単なるセンチメンタルな態度に過ぎないのかもしれない。 **B** なぜ生物種を保護する必要があるのでしょうか。

ここで薬の材料となることなど、生物種から得られる利益が失われるから生物を絶滅させてはならないということができません。 **C** アマゾンに生息する珍しい植物から、ある種のがんに対する特效薬を作ることができるともいけません。しかしその植物が絶滅してしまえば、その植物からその特效薬を作ることはいくらもありません。どのような動植物でも薬などの材料になる可能性があるのです。動植物も絶滅させてはならないことになるのです。このような考え方は、生物の価値は、すべて人間の利益になること、人間に何らかの形で **イ** することから生じることになります。このような説明の仕方は人間中心主義

的な説明です。しかしこの非・人間中心主義のレベルでは、人間にとって利益のない種であっても、絶滅を防がなければならぬこととなります。

D、先に述べた第三のレベル、つまり生態系に着目する立場では、特定の生物が絶滅することの問題は、それによって、生態系のバランスが崩れることにあります。これは個々の生物種ではなく、生態系に価値があるという考え方にに基づきます。そして生態系の価値を計る **ウ** となるのが、生物多様性です。そして生態系全体を対象とする自然科学として、一九三〇年代頃に生態学(ecology)が生まれました。生態学に限らず、この頃から個々の生物ではなく生態系を守ることが必要であり、生態系というシステム全体に対する配慮が必要だと考えられるようになってきたのです。生態学(とくにいわゆる保全生態学)では、生態系のバランスを守るために人間がある程度カイニウ²して、増え過ぎた生物(たとえば北海道におけるエゾシカ)を殺すことは許されるし、むしろそうするべきだということになります。ただしこれは生態系に配慮することによって、農業に対するダメージを減らせるといった **エ** 「な利益の配慮に基づく判断ではありません。あくまでも生態系全体を守ること自体に価値があると考えられているのです。

E、環境倫理では「生物共同体」(biocommunity)という語が用いられることがあります。人間は「生物共同体」の一員に過ぎないのです。この「生物共同体」という語は、生態系という概念を言い換えたものです。

さて、このような個々の生物に対する配慮、生物種が絶滅しないようにする配慮、生態系に対する配慮、いずれのレベルで配慮をするにせよ、この三つのレベルの考え方に共通することは **I** ということです。「人間中心主義」とは、さまざまな価値、特に動植物の価値は、自分たちの利益(特に経済的利益)との関係で人間が与えたもの、構成したもの、³ トウエイしたもの³に過ぎず、植物や動物の中に何らかの価値が実在するとは考えない立場のことです。例えば、先に述べた「なぜ種の絶滅を防がなければならぬか」という問題についての「薬がとれるから」という説明は、人間中心主義的な説明です。つまり人間への種々の利益があるから種の絶滅を防ぐべきだということです。このような説明では、自然は人間が様々な「利益」を得るための道具だと考えられています。「利益」とは、特定の植物・生物から貴重な薬をとることができるといった、薬学・医療のための利益であ

り、他には農業・漁業・林業による利益、さらに生活のためのシユリヨウの対象にするという利益、種々のジユンスイ⁵に学術的な生物学的研究に使うという利益、観光資源として見て楽しむという利益、そしてそこに住む人々の自然とともに生きる「生活」や「文化」から得られる利益などのことです。こういった人間中心主義的な説明では、自然の価値を人間にとっての利益(特に経済的利益)に還元していることとなります。粗っぽい言い方をすれば、自然や人間以外の生物は、しよせん

II

こととなります。

一方、先に述べたように個々の動植物、さらに種や生態系にも「内在的価値」を認める立場は、人間中心主義、つまりすべての価値を人間にとつての利益に還元する立場ではありません。「内在的価値」とは、何らかの目的を達成するための手段としての価値ではない、「それ自体がもつ価値」のことです。つまり「内在的価値」とは道具としての価値ではなく、それ自体として、人間とは無関係に存在している価値のことです。例えば芸術作品には「内在的価値」があると考えられます。芸術作品の価値は、何らかの目的のための道具としての価値ではありません。人間については、「人間のソング⁶」とは人間の内在的価値を表した語だといつてよいでしょう。非・人間中心主義は、人間以外のものにもこのような「内在的価値」、つまり単なる道具的な価値ではない、「それ自体での価値」を認める立場です。一方生物に食物としての価値や経済的価値しか認めないなら、それは「人間中心主義」だということになります。

非・人間中心主義の立場では個々の生物を(意味もなく)殺すことが悪いのは、その生物が死んでしまえば、その生物の「内在的価値」が失われてしまうからです。動物を意味もなく殺すことは「それ自体で」(あるいはその生物自身にとって)悪いのであつて、「飼い主に悪いから」ではありません。生物種の絶滅も「それ自体で」悪いのであつて、人間にとって何らかのデメリット(とくに経済的なデメリット)があるから悪いのではないということになります。生態系の破壊も「それ自体で」悪いのであつて、生態系が破壊されることによつて、人間に経済的な不利益が生じるから悪いのではない、ということになります。

このような非・人間中心主義は、現代の生物学研究の成果をある程度反映しています。ダーウインの進化論の登場以降、人間は自然界の中で特殊な存在ではなく、あくまでも一つの生物種に過ぎないという理解が広まってきました。さらに分子生物学の

研究の結果、すべての生物種でDNAは同じ塩基^(注)によって作られていることがわかりました。生物種の違いはDNAの塩基配列の違いでしかないので。さらに「ヒトゲノム」解析などの遺伝子解析研究の進展の結果、人間とチンパンジーやゴリラでは、遺伝情報の違いはほとんどないことがわかりました。例えば、人間とチンパンジーではゲノムの塩基配列は一パーセント程度の違いしかありません。

しかし、生物の「内在的価値」などというものは本当にあるのでしょうか。価値とはそもそも私たちが与えるものであり、「それ自体として」は存在しないのではないのでしょうか。そもそも「内在的価値」は自然的・物理的事実として存在するものではありません。内在的価値とは目に見えるものでもなければ、手にとつてふれることができるものでもありません。そもそも本当に生物に内在的価値は存在するのでしょうか？ そしてそのような内在的価値が存在するとして、人間にそれを認識する能力はあるのでしょうか？ そして動物や自然物の道徳的地位はどのようなものなのでしょうか？ このようなオな議論では、哲学者は燃え上がります。哲学者はこういう問題について議論することが大好きなのです。このような議論は直接、動物の待遇の改善や環境保護に貢献するわけではありませんが、環境保護に関する議論に間接的に貢献するといつてよいでしょう。

哲学的な議論を積み重ねていくと、非・人間中心主義を採用することはかなり困難であることがわかります。すべての生物に「内在的価値」があると証明することは困難です。また人間に内在的価値を認識する能力があると考えることも困難です。道徳とは基本的には人間同士の関係に関わる概念ですから、動物に人間と同じ道徳的地位を認めることも困難です。このような立場が認識されることによって、哲学的環境倫理学の中では、人間中心主義が再び主流になってきました。しかし、このような立場は、人間中心主義といつても人間の経済的利益などを中心にする立場ではないので、「弱い人間中心主義」と呼ばれています。一方人間の経済的利益などを中心にする考え方は「強い人間中心主義」と呼ばれています。「生物を尊重する」ということは、「強い人間中心主義」的な態度を捨てること^(注)だといつてよいでしょう。しかし、人間中心主義的な立場をとるからといって動物の福祉を無視してよいということにはなりません。「弱い」人間中心主義の立場をとりながらも、動物の「福祉」も尊重することが望ましいといつてよいでしょう。

(蔵田伸雄「木は法廷に立てるか——生物を尊重するとはどういうことか」
『生物という文化——人と生物の多様な関わり』所収)より)

(注) 塩基——細胞内の成分。DNAの中の塩基の並び(塩基配列)が、その遺伝子が持つ遺伝情報を表している。

問1 ———線1～6を漢字で書いたときに用いる字として最も適当なものを、次の各群の①～⑥のうちから、それぞれ一

- | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|--------|---|
| 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | つずつ | 1 |
| ソ | ジ | シ | ト | カ | キ | ず | キ |
| ン | ユ | ユ | ウ | イ | ボ | つ | ポ |
| ゲ | ン | リ | エ | ニ | | 選 | |
| ン | ス | ヨ | イ | ユ | | び | |
| | ス | ウ | | | | な | |
| | イ | | | | | さい。 | |
| | | | | | | 解答番号は、 | |
| ① | ① | ① | ① | ① | ① | 1 | 1 |
| 原 | 粹 | 朱 | 東 | 会 | 期 | 2 | 2 |
| | | | | | | 3 | 3 |
| ② | ② | ② | ② | ② | ② | 4 | 4 |
| 玄 | 睡 | 珠 | 投 | 介 | 季 | 5 | 5 |
| | | | | | | 6 | 6 |
| ③ | ③ | ③ | ③ | ③ | ③ | | |
| 験 | 垂 | 狩 | 塔 | 拐 | 機 | | |
| | | | | | | | |
| ④ | ④ | ④ | ④ | ④ | ④ | | |
| 幻 | 推 | 趣 | 頭 | 皆 | 規 | | |
| | | | | | | | |
| ⑤ | ⑤ | ⑤ | ⑤ | ⑤ | ⑤ | | |
| 巖 | 遂 | 首 | 統 | 塊 | 軌 | | |
| | | | | | | | |
| ⑥ | ⑥ | ⑥ | ⑥ | ⑥ | ⑥ | | |
| 弦 | 炊 | 腫 | 党 | 怪 | 既 | | |

問2

ア 〓 オ に入る語句として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、ア 7 イ 8 ウ 9 エ 10 オ 11。

- | | | | | | |
|---|-------|-------|-------|---------|---------|
| ア | ① 観点 | ② 焦点 | ③ 黒点 | ④ 争点 | ⑤ 交点 |
| イ | ① 匹敵 | ② 配慮 | ③ 教唆 | ④ 貢献 | ⑤ 説明 |
| ウ | ① 商標 | ② 墓標 | ③ 指標 | ④ 座標 | ⑤ 目標 |
| エ | ① 経済的 | ② 限定的 | ③ 感情的 | ④ 生態学的 | ⑤ 保守的 |
| オ | ① 啓蒙的 | ② 可及的 | ③ 倫理的 | ④ 量子力学的 | ⑤ 形而上学的 |

問3

線A「『人間中心主義』とあるが、本文中で「人間中心主義」ではない人間の活動の例として挙げられているものの説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、12。

- ① がんの薬を作るために、アマゾンの植物を保護する活動。
- ② 農業に対してダメージを与える動植物を駆除する活動。
- ③ 人々が自然とともに生活する文化を守ろうとする活動。
- ④ 観光資源として見て楽しむために動物を保護する活動。
- ⑤ 北海道において、増え過ぎたエゾシカを駆除する活動。

問4

A 〓 E に入る語句として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。ただし、同じ番号を二回以上用いてはならない。もし用いた場合は、同じ番号の解答をすべて誤答とする。

- 解答番号は、A 13 B 14 C 15 D 16 E 17。
- ① 例えば
 - ② しかし
 - ③ なお
 - ④ 一方
 - ⑤ それでは
 - ⑥ やはり

問5

I

に入る言葉として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

18

① 「人間中心主義」を許容する

② 「人間中心主義」に拘泥する

③ 「人間中心主義」を捨てる

④ 人間が動植物に価値を与える

⑤ 人間への種々の利益を認める

問6

II

に入る言葉として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

19

① 何らかの利益を得るための「道具」としての価値しかもたない

② 「内在的価値」が存在することを限定的にしか認められていない

③ 人間の「道具」となって利益を生み出し続けることはできない

④ 人間にとっての利益よりも生態系の価値を優先することはできない

⑤ 自らの存在によって人間が利益を得ることに同意していない

問7 — 線B「生態系の破壊も『それ自体で』悪い」とあるが、この背景に関する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、20。

- ① 人間が生態系のバランスに配慮することで、結果的に農業に対するダメージを減らすことができるとわかった。
- ② 生態系に「内在的価値」を認めることは、「人間中心主義」からの脱却につながり、人間の生活を豊かにした。
- ③ 生態学の研究によって、動物や植物の中に人間の利益とは関わりが無い価値が存在することが明確に説明された。
- ④ 生態系のバランスが崩れることで、人間の生活に思いもよらぬ影響が及ぶ可能性が指摘されるようになった。
- ⑤ 生態系を一つのシステムとしてとらえ、そのシステム全体に配慮することが必要だと考えられるようになった。

問8 — 線C「現代の生物学研究成果」とあるが、筆者がこの話題を用いたのはなぜだと考えられるか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、21。

- ① 似通った遺伝情報をもつ生物種がいる中で、自分の利益だけを追い求める人間の姿勢に疑問を呈するため。
- ② 人間と他の生物との間に大きな違いはなく、人間もDNAをもつ一つの生物種であることを説明するため。
- ③ 人間は自然界において特別な存在ではなく、生態系を破壊したり守ったりする権利はないことを示すため。
- ④ 全ての生物種でDNAを構成する物質は共通であり、生物には平等に感情が存在することを説明するため。
- ⑤ 自然界の中で人間は他の生物と同等であり、人間の利益のために動物を殺すことは許されないと主張するため。

問9

——線D「生物の『内在的価値』などというものは本当にあるのでしょうか」とあるが、この問いに対する筆者の考えの説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

22。

① 「内在的価値」の存在は判断しかねるものの、動物が幸福であることを重視しつつ、哲学的環境倫理学を踏まえた人間中心主義の立場をとるべきであるということ。

② 「強い人間中心主義」と「弱い人間中心主義」の長所と短所を明確にして、双方のバランスをとりながらも、動物の「福祉」を尊重することが望ましいということ。

③ これまでの哲学的環境倫理学で唱えられてきた人間中心主義を全面的に否定し、新しく、より道徳的な動植物との共生のあり方を考えていくべきであるということ。

④ 哲学的環境倫理学の立場から、非・人間中心主義の立場をとることが困難であることを認識し、動物の「福祉」に関わる人々に継続して発信すべきであるということ。

⑤ 哲学的環境倫理学の分野において現在主流になってきている人間中心主義を見直し、より動物の「福祉」を尊重した立場を採用することが望ましいということ。

問10

本文の内容と合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

23

。

① 環境倫理で用いられている「生物共同体」という語は、生態系という概念を言い換えた語であり、生態系全体を守ること自体に価値があるという考えの根拠となっている。

② 非・人間中心主義の立場から考えるならば、たとえ人間にとっての利益にならないとしても動植物を保護する行為には価値があり、行動を起こして生物の絶滅を防ぐべきである。

③ 人間が動植物の「内在的価値」を認識する能力があることを証明することは困難であるが、この能力の有無について議論することは、動植物の学術的な生物学的研究に役立つ。

④ 特定の珍しい植物が薬の材料になる可能性があるため、その植物を絶滅させてはならないという考え方は、生物に価値を与えない「強い人間中心主義」的な態度である。

⑤ 芸術作品の価値は何らかの目的を踏まえた価値ではないため、同様の価値を動物に認めるならば、意味もなく動物を殺すことは悪い行為であると主張することができる。

II 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。解答番号は、

24

41

今は昔、ある上戸余所(注1)に行きて、大酒を飲み、帰る道にてうち倒れ、顔をすりむき、むかふ脛すねを打ち破り、やうやう家に帰りて、うめきうめきふしたり。女房これを見て、「世の中の恥知らずといふは、そなたの事ぢや。酒を飲むとて酒に飲まれて、かやうに道中にてころび倒れ、顔をすりむき足を打ち破り、術うなさうな体たらくぢや。酒を飲むならば、よいころ(注2)に飲ふだが見事な」といへば、この男枕をあげて、「これがよいころぢや」といふた。浮世房(注3)この話を聞きていふやう、「上戸の酒に飽き足りのなきをaをかしがれども、世の中の人皆ともによろづ飽き足る事を **ア** で、災ひにかかる者多し。これ欲心の深きが故なり。老子のいはく、『欲多ければ身をそこなひ、財多ければ身をわづらはす』といへり。わづらはすとは、用心いに隙ひまなき心なり。げにも飽き足る事を知らざる者は、欲深き故なれば、これ災ひの本なり。財はまた身をそこなふ種なり。この故に欲をばほしいままにすべからず。つねに足る事を知るべし。足る事を知らざる者は、 **イ** りといへども貧しきがごとし。足る事を知る者は貧しといへども富めるがごとし。『色は染めざればけがれず、財はむさぼらざれば害なし』といへり。やるまじき人の物をやるを、取るまじき人のこれを取る、もろともに災ひの種を植ゆるなり。さればこそ **I** は、やるべき時には与へ、取るべきものをば取る故に、災ひにかかることなし。 **II** は欲心に目くらみて、後の災ひを思はず、取るが上にも取りたがり、欲しがる故に、足る事知らず、恥をまねき災ひにかかる。それ寒蟬は枯木をいできて露をくらひ、蜻蛉は草葉にとまりて水を飲み、おのれ飽き足りてたくはへなし。この故によこしまの害をうけず。蟬は腹をもつて吟じ、蜓とんぼはつばさを開きて飛ぶ。思ふことなく、かかはる所なし。みそさざいは巢をくふに一つの枝をひろしとし、はつかねずみの川を飲む、腹 **ウ** ば足りぬ。人は欲心に頂なくして足る事知らず。かの大上戸の酒に酔ひふして、よいころぢやといふには劣れり」。

(『浮世物語』より)

(注1) 上戸——酒飲み。

(注2) よいところに飲ふだが見事な——適度に飲めばさまになるのに。

(注3) 浮世房——この物語の主人公。

(注4) 蜻蜓——とんぼのこと。後の「蜓」も同じ。

(注5) みそざざい——鳥の一種。

問1 ~~~~~線ア〜オの本文における意味として最も適当なものを、次の各群の①〜⑤のうちから、それぞれ一つずつ選

なさい。解答番号は、ア **24** イ **25** ウ **26** エ **27** オ **28**。

ア 「やうやう」 ① 次第に ② かるうじて ③ ゆったりと

④ すばやく ⑤ 仕方なく

イ 「術なさうな」 ① たくましい ② 醜い ③ 巧みな

④ どうしようもない ⑤ 悲しげな

ウ 「げにも」 ① 実際に ② 今でも ③ ただし

④ おそらく ⑤ きつと

エ 「もろともに」 ① すつかり ② 本当に ③ 全て

④ 真剣に ⑤ そろって

オ 「よこしまの」 ① 些細な ささい ② 甚大な ③ 邪悪な

④ 横着な ⑤ 曖昧な

問2 ―線A「これがよいころぢや」とあるが、この発言を浮世房はどのように評しているか。その説明として最も適当なもの

のを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、29。

- ① まさに欲深さゆえに身を持ち崩す者の言い分であり、愚かさの極みである。
- ② 欲深く満足を知らない者が多い中で、自らの適量を知っているだけましである。
- ③ 節度をわきまえ、足るを知る者の発言であり、欲深い者とは大違いである。
- ④ 貪欲で慎みを知らず家族にまで迷惑をかける様子は、たいへん見苦しい。
- ⑤ いざというときのために備えて、際限もなく蓄財することは当然である。

問3 〰線 a・b の活用形を、次の①～⑥のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、a 30 b 31。

- ① 未然形
- ② 連用形
- ③ 終止形
- ④ 連体形
- ⑤ 已然形
- ⑥ 命令形

問4 ア ウ に入る語句として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選

なさい。解答番号は、ア 32 イ 33 ウ 34。

- | | | | | | |
|---|-------|-------|--------|--------|--------|
| ア | ① 知ら | ② 知り | ③ 知る | ④ 知れ | ⑤ 知ろ |
| イ | ① 富ま | ② 富み | ③ 富む | ④ 富め | ⑤ 富も |
| ウ | ① ふくれ | ② ふくる | ③ ふくるる | ④ ふくるれ | ⑤ ふくれよ |

問5 〓線いゝはの解釈として最も適當なものを、次の各群の①ゝ⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、い

 ろ

 は

 。

い 「欲をばほしいままにすべからず」

- ① 欲望を放逸に発散させることはできない
- ② 欲望を好き勝手に働かせてはならない
- ③ 欲望を恣意的に働かせるはずがない
- ④ 欲望を怠惰に浪費してはならない
- ⑤ 欲望をそのまま放っておくはずがない

ろ 「取るが上にも取りたがり」

- ① 手に入れてもさらに高級なものをほしがり
- ② 手に取るにしても上等なものしかほしがらず
- ③ 手に取る前から別のものをほしがり
- ④ 手に入れてもさらにたくさんほしがり
- ⑤ 手に入れてもすぐによいものをほしがり

問7 — 線B「寒蟬は枯木をいだきて露をくらひ、蜻蛉は草葉にとまりて水を飲み」とあるが、「寒蟬」や「蜻蛉」は何の例として挙げられているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。

解答番号は、39。

- ① 自身の現状を受けとめ、慎ましく生きる例。
- ② その日暮らしの生活で、不安定な日々を送る例。
- ③ 貪欲に蓄財しようとした結果、身を持ち崩す例。
- ④ 日々の生活にうんざりして、漫然と生きる例。
- ⑤ 酒を飲まず、穏やかで安全な生活を送る例。

問8 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、40。

- ① 自分が満ち足りていることに気づくことのできない者は、いずれ酒におぼれて失敗する恥知らずになる。
- ② 今あるもので満足する心があれば、たとえそのときは貧しくてもいずれ財産がたまるようになり豊かになる。
- ③ 財産が多いと常に用心して心穏やかではいられなくなるので、欲深くむやみに蓄財することは災いのものである。
- ④ みそさぎいは狭い巣でも満足するのに、はつかねずみは川の水を腹いっぱい飲んでも満足しない欲深い動物である。
- ⑤ あらゆる財産は害をもたらすものであるので、進んで手放すことによって自身の幸せを実感できるようになる。

問9 『浮世物語』と同じく、江戸時代に成立した作品を、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

41

。

- ① 建礼門院右京大夫集
- ② 風姿花伝
- ③ 和泉式部日記
- ④ 曽我物語
- ⑤ 雨月物語